

第 139 回 経過観察を理解しよう

さあ、きょうの患者さんは 70 代の女性です。3 日前に自宅でつまずいて転倒し後頭部を打撲。そのときは痛かったのですが、翌日には触ると痛いくらいで気にしていませんでした。ところが近所の奥さんに、「頭を打ったら、あとから出て来るわよ」と言われて心配になり、脳外科を受診。

診察した上では異常なく、希望されたので頭部 CT を撮りましたが、これも異常なし。そこで「経過をみたのでよいでしょう」と言いました。

きょうはこの「経過観察」について考えてみたいと思います。診察室でしばしば医師に言われると思います。「様子をみることにしましょう」「しばらく経過をみてみましょう」。何らかの症状を訴えられる患者さんに対し、診察や検査を行ったけれども明らかな異常が見つからず、症状も軽いか、安定しているために、特段の治療も要しないと判断した場合、経過観察を告げることになります。すると殆どの患者さんが、お聞きになります。

「では、放っておいても大丈夫ということでしょうか？」

確かに、経過観察の言葉の中には、放っておいても大丈夫だろう、というニュアンスは多分に含まれていますが、だからといって、放っておいても大丈夫であるとは必ずしも言えない場合もあります。

今後症状が悪化することが無いとは言いきれません。しかし、そういう質問をする患者さんの気持ちも、よくわかります。悩みをもって思い切って病院にきたのに、明らかな原因も分からないまま、ただ様子を見ろと言われても納得できないでしょう。せめて医者判断として、

「放っておいても心配ありません。1 週間程度で治ります」

とでも言ってもらえれば、安心できるでしょう。けれども、

「医者に行って大丈夫だと言われたのに、放っておいたら悪くなった」

と、迂闊な発言をした医師の尻拭いも、これまでに何でもしてきたので

「経過観察というのは、本人の自然治癒力に委ねるという治療方法の一つでありますが、放っておいて何をしても構わないわけではありません。十分大事にしてください」

と、患者さんには誤解のないように説明すると、多くの患者さんは、途中で（大丈夫と言ってくれないならもう、そんな話など聴きたくない）といった感じで、話もそぞろに腰を浮かされますが、こちらとしても何か釈然としない気分になってしまいます。

何が足りないのか、説明が不足しているのです。頭を打った場合、それほど強く打っていないのに後から出てくることは稀にあります。慢性硬膜下血腫といって打ったときはどうもなかったのに、脳の表面の静脈に傷がついて、少しずつ少しずつじわじわと出血して血腫になっていくことがあります。こういったことが稀にはあることを説明し納得いただいて、1 か月くらい経って頭痛やふらつきなど調子が悪ければ再診してくださいと医師であれば言わなくちゃなりません。

さらに尋ねたいことがないかどうか、医者には聞けなくても看護師さんになら尋ねやすいかもしれないので看護師さんから再度質問がないかどうかを確かめてもらうことも必要でしょう。経過観察で済ましてしまってもやもやしたままお帰りいただくことになりかねません。

そこで頭を打った場合は次のような方にはとくにしっかりと説明するように心がけています。

アルコールを毎日のように飲んでいる人

ワルファリンやアスピリンなど、血液サラサラの薬を服用している人
受傷時に一過性の意識障害があった人
痙攣発作があった人
軽い外傷とはいえない人（階段から転落した、など）
独居の人

注意すべき具体的症状と当院の夜間休日を含めた電話番号を書いた紙をあらかじめ準備しておき、「頭部外傷時の注意書き」として患者さんにお渡ししています。きちんとリスクをチェックし、後々のことも説明しておく、患者さんのほうも「なんて親切なお医者さん！」と思ってくれるのか、あまりトラブルになるようなこともありません。

さて経過観察で問題となる脳外科疾患で難しいものに未破裂脳動脈瘤があります。3mm未満の未破裂脳動脈瘤が見つかった患者さんでは、予防的治療も画像検査による経過観察も実施しなくていいとの報告もあります。しかし、経過観察をして少しでも大きくなったり、形が変化すれば何らかの処置が必要との報告も多い現状です。

問題は大きさと脳動脈瘤の部位、そして年齢が大きく関わってきます。私の患者さんにも未破裂脳動脈瘤で経過観察している方がたくさんおられます。80才を超えて毎年MRIの検査を受けに来られます。忘れないために患者さんの誕生日ころに検査の予約を入れるようにしています。瘤の小さい方ではとくに検査は不要ではないかと提案するのですが、患者さんは心配だから検査を続けたいという方が多いです。未破裂脳動脈瘤が心配なのか、認知症が心配なのか、自分でもよくわからない患者さんも多くいるように思います。

最近では2年に1回や3年に1回でいいでしょうとお話している患者さんも多くなってきました。

脳の検査に関しては本当に必要かどうかをよく考えて受けていただきたいと思っています。ドック検査で異常ありませんと言われればいいですが、そうでなくて何らかの異常が見つかるかもしれないわけですから、心の準備と異常を指摘された場合の質問など、頭が真っ白にならないように注意が必要です。

.....
今月も最後までお読みいただき、ありがとうございました。なお、本メールに返信されてもご回答できませんので、ご了承願います。

▼こちらから「Salud!えひめ」のバックナンバーをご覧ください。
<http://www.kyoukaikenpo.or.jp/shibu/ehime/cat130>

.....
Salud（サルー）とはスペイン語で「健康」「乾杯」を意味する言葉です
同僚や友人ご家族に「Salud!えひめ」をぜひご紹介ください。

▼配信停止を希望される方はこちらから
https://merumaga.kyoukaikenpo.or.jp/webapp/form/16520_kly_1/index.do

▼登録情報を変更されたい方はこちらから
https://merumaga.kyoukaikenpo.or.jp/webapp/form/16520_kly_2/index.do
※現時点の登録情報が記載されていますので上書き入力にて変更してください。

全国健康保険協会（協会けんぽ）愛媛支部
〒790-8546 松山市千舟町 4-6-3 アヴァンサ千舟 1階
TEL 089-947-2100（代表）
ホームページ <https://www.kyoukaikenpo.or.jp/shibu/ehime/>
